

平成27年度活動方針について(会長)

27年度は、隊友会が公益社団法人に認定されて5年目の節目の年。防衛・防災施策、自衛隊諸活動の支援、慰霊顕彰事業及び地域社会の健全な発展に寄与して、公益目的事業の定着充実化を図って参りたい。このため、大規模災害に備えた防災対策を充実すると共に自衛隊の諸活動に対し難題が降りかかった場合、昨年中学校におけるパネル展示中止に対し市教育委に申入れしたように即応したい。

更に憲法改正は、自衛隊・隊友会にとって悲願。まず各会員10名の署名目標を達成し、東日本大震災時危険を顧みず身をもって人命救助・災害復旧に当たった自衛官に地位と名誉を与えてあげたい。その他の公益目的事業は、26年度を踏襲します。また隊友会歌は鹿児島から情報を発信して再興定着しました。県は元より支部等においても総会・行事等において国歌に続いて隊友会歌を斉唱し、隊友会の団結・絆の証としたい。皆さんと一緒に意義ある活動、行動する隊

平成27年度 事業計画(概要)

1 方針

県隊友会は、県民と自衛隊のかけ橋として、県民の防衛に対する一層の理解と認識の向上に努め、防衛及び防災施策、自衛隊諸活動並びに予備自衛官等の支援を基本とし、慰霊顕彰事業及び地域社会の健全な発展に寄与する事業を積極的に推進する。

このため、公益目的事業の定着充実化により会活動の活性化を図るとともに、会勢の拡大、収益事業の推進により会基盤の充実を図り、併せて会員の福祉と親睦のための事業を継続して会の魅力化に努める。

(1) 総務・組織

ア 会勢の充実・拡大

(ア) 会員の増勢

- a 即日入会率の向上及び未加入OBの掘り起こし
- b 会員名簿の整理
- c 家族会員加入率10%以上目標
- d 予備自衛官・女性部会を充実強化し隊友会の活性化を推進
- e 特別会員の増勢(地域社会の隊友会への理解と協力促進)
- f 会員の定着率向上(特に1年未満会員)

イ 組織の改編・強化

新支部等の結成機運の醸成支援(未結成及び空白等地域)

ウ 会務運営の効率化

- (ア) 定期総会・防衛講演会と懇親会を併せ実施(議事及び会員の啓発・懇親の機会)
- (イ) 本部・県総会議決権の整齊実施
- (ウ) IT機器の効果的運用推進(事務機器のマニュアル化、会員とのアクセス拡大、県隊友会HPの更新等)
- (エ) 本部規則類等の見直し等に併

(2) 市民・防衛・広報

ア 防衛意識の高揚

- (ア) 定期総会時防衛講話、支部総会利用の防衛意識高揚
 - (イ) 安全保障フォーラム(10. 24)開催(協力諸団体等と連携)
 - (ウ) 九・沖ブロック研修会開催(11.28~29 宮崎県都城市)
 - (エ) 方面隊演習・防災・現地研修等へ参加
- イ 自衛隊及び地方公共団体の防災等施策への協力
 - (ア) 隊友会自衛情報ネットワークの維持・拡充と12普連への情報提供
 - (イ) 国保法事態及び大規模災害時等の自治体との協力協定締結の推進
 - (ウ) 大規模災害時の協力者ネットワークの構築推進(全国本部と連携した県隊友会防災ボランティア活動マニュアルの活用)
 - (エ) 自治体等の行う総合防災訓練等への参加
 - (オ) 新規入会会員を重視したボランティア人材バンク組織の維持・拡充
- ウ 地域社会の健全な発展に寄与する各種協力
 - 自衛隊で培った能力・経験及び組織力の活用
 - (ア) 県内公益目的事業の推進(慰霊碑等の清掃、各種慰霊祭への参加等)
 - (イ) 「東日本大震災復興お助け隊」への参加(自衛隊OB登録者766人(内、鹿児島出身者59人))

エ 広報活動

- (ア) 広報紙「隊友さつま」の発行:年4回

(3) 部隊等支援・協力諸団体・親睦

ア 部隊等支援

- 会活動の柱という認識のもと積極的に支援
- (ア) 演習・訓練・災害派遣等・国際支援活動の協力支援
- (イ) 部隊等との交流の拡充
 - a 部隊(駐屯地)との、定期意見交換会開催
 - b 隊員と各支部会員との直接的交流
 - c 各駐屯地開設の「隊友会PRコーナー」充実活用
 - d 駐屯地(体育)クラブ活動支援
- (ウ) 募集・援護等の支援(鹿地本・各地域事務所・援護センターとの連携)

イ 予備自衛官等(即自含む)の支援

- (ア) 招集訓練時の激励品、射撃優秀者への表彰及びメダル等付与
- (イ) 隊友会活動の紹介時間の設定並びに意見交換会の開催

ウ 殉職者自衛隊員及び戦没者等の慰霊顕彰

- (ア) 殉職者慰霊:方面・師団並びに各基地・駐屯地の追悼式参加(地本の協力を得て鹿児島県殉職者の慰霊祭主催(県護国神社))
- (イ) 戦没者慰霊:県として各種慰霊祭参加(各支部で清掃・慰霊活動参加)

エ 協力諸団体等との連携

- (ア) 県主要事業:県グラウンドゴルフ大会・囲碁大会
- (イ) 会員の叙勲・功績に敬意、不慮の事故へお見舞い
- カ その他:隊友会職の作成配布

(4) 財務・事務局・監事

- ア 財務強化、会費徴収厳正化
- イ 収益事業等 販売広報を積極的に実施
 - (ア) 天の輝き「隊友」は、九州各県隊友会及び県内会員への販売の拡大
 - (イ) 相互扶助事業等は、情報の獲得
 - (ウ) 広告紙頒布依頼企業の開拓
 - (エ) 「隊友さつま」への広告協賛企業を



特攻慰霊祭献花の状況

鹿児島地区協議会長 河野時彦記



新会長 村山文彦氏

平成27年度県総会で鹿児島県隊友会長に就任しました、村山文彦です。素晴らしい伝統を有する会の先頭に立つことを考えますと、大変身の引き締まる思いです。就任致しましたからには、会の充実・発展のため一生懸命汗をかいて参りたいと思います。会長就任にあたり、いくつか思いを述べさせていただきます。

まず第一に、国民と自衛隊の架け橋」というスローガンは何時になっても変わらないと思えます。我が国の安全保障情勢、とりわけ尖閣など南西諸島の軍事情勢は予断を許さず、離島の情報部隊も含め、県内の各部隊も国防最前線の任務遂行と、これがための厳しい訓練を積み重ねています。

自衛隊が発足して60年以上を経過し、いわゆる自衛隊アレルギーは殆ど払拭されましたが、明日起こりうる事態を想定し、戦いに勝つための訓練を積み上げている本来の姿、ありのままの自衛隊の姿は、未だ十分理解されていないと思えます。今こそ、私たちは、後輩のため声をあげ、積極

的に国や県に政策提言などをし参りましょう。また、各県隊友会とともに手を携え、憲法改正の署名活動」に鋭意参画して参りましょう。次に県隊友会の活動は支部活動が基本だと思えます。会員の高齢化など共通する課題を克服し、各支部の実情を踏まえての勢力拡大に努力しましょう。また、今年で公益社団法人に移行して5年目になります。各支部の努力で、県内各地の戦没者慰霊施設の清掃・慰霊活動やその他のボランティア活動が軌道に乗っています。また、災害支援面でも、市町村レベ

ルの防災協定締結や災害ボランティアマニュアルの具現実行に努めるなど、公益事業の更なる充実発展に努めて参りましょう。3つ目になります。引続き会員の親睦を深め、会員同士の絆を強めることが大切だと思っています。私達は、自分を育ててくれた自衛隊に感謝の念を持ち、退職後も自衛隊に強い愛着心を持つ者になりなす。各支部の努力で、県内各地の戦没者慰霊施設の清掃・慰霊活動やその他のボランティア活動が軌道に乗っています。また、災害支援面でも、市町村レベ

新会長挨拶



発行 鹿児島県隊友会
発行責任者 村山文彦
印刷 (株)新生社
鹿児島市七ツ島
TEL 099-261-0111

国分特攻慰霊

4月26日(日)霧島市国分の特攻碑公園で実施された平成27年度国分基地特攻隊員戦没者慰霊祭」に河野副会長及び後村国分事務所局長他多数の会員が参加した。慰霊祭は、遺族88人も、自衛官 陸・海・空(・)事務官・ナースなど異なり参りし、在籍した年代・期間も異なりますが、同じ自衛隊の釜の飯を食べた同胞として、互いに語らい、昔話や苦労話などに花を咲かせ、英気を養い、自衛隊の歴史を後輩に伝えて参りました。以上で鹿児島県隊友会に就任にあたりましての挨拶とします。

私の伯父は海軍の特攻隊員でした。太平洋戦争末期鹿児島本土から飛び立った特攻機の中には、出撃途中、エンジントラブルのため、枕崎の南方約60kmの洋上にある三島村の一つ黒島付近に不時着した特攻機もありました。▼黒島は沖繩出撃時の飛行経路上の目印でもあったからです。その際、負傷した特攻隊員の中には、島民からの手厚い看護により生還した隊員もおられました。▼私は鹿児島地本勤務時、平成16年に始まった黒島の特攻平和記念祭」に10年の節目に慰霊飛行支援の依頼を受け調整に携わりました。現在、この黒島の島民と特攻隊員の交流を描いた故小林広司監督の著書「黒島を忘れない」の映画化が進んでおり、来年夏公開予定です。▼鹿児島県には、特攻基地等に関連する慰霊碑も多く、隊友会ではその清掃奉仕活動や慰霊祭の行事支援等を事業の一つとして行っています。私に関わっていきたく思っています。▼国を守

帰線

鹿兒島地区協議会 俊伸 記

総会盛大に開催

平成27年度県隊友会総会

平成27年度県隊友会定期総会は5月24日13時から18時まで鹿児島市のジェイドガーデンパレスで総会、防衛講演会及び懇親会の3部構成で実施された。

総会は、13時から県城各支部の119人の会員が参加し、国歌・隊友



新任挨拶をする村山新会長

村山新会長は挨拶で、新体制で国会議員、県議員、協力団体等の招待者を迎えるおもてなし盛大かつ盛會裏に終了した。岩崎副会長 記

「出水特攻慰霊祭」の

昭和35年4月16日出水海軍航空隊地下戦闘指揮所壕の上に「特攻碑」を建立し、終戦より十五霜経て初めの前夜祭、除幕式と慰霊祭が元隊員、遺族、地元市民により、執り行われた。

その後「海軍航空隊出水基地陸攻隊銀河隊出撃の碑」と鎮魂殉国の碑638柱」を建立して御



清掃前に説明をする吉田氏(右)

霊達のお名前を刻んであります。かつては、元隊員、遺族等全国から多数の方々が、前夜祭・慰霊祭に参加されましたが、近年は関係者の高齢化がすすみ、先細りの感があります。広報等のため米ノ津港に入港した、海自艦艇の指揮官、乗組員等には、慰霊碑に献花と参拝の協力を得ています。

績を残された川畑会長は挨拶で4年に亘る職務を総括し今後の運営を村山新体制へ託した。また、新会長挨拶で村山新会長が力強く責務の引き継ぎを宣言し、上番にあたっての想いと決意を披露して総会は円滑に終了した。

15時から第1航空群司令園田直紀海将補による演題「海上自衛隊の現状と東・南シナ海の情勢について」(50分)の防衛講演会が行われ特別会員も加わり全会員がホッとした話題の情勢分析等を熱心に聴講した。

懇親会は16時から実施され、全県域の会員が年に一度一同に会する機会に懇親と隊友の絆を十二分に深めるとともに、新体制で国会議員、県議員、協力団体等の招待者を迎えるおもてなし盛大かつ盛會裏に終了した。岩崎副会長 記

岩崎2GP副会長 記

社交ダンスに本気

私の趣味は、40歳過ぎから増え、バドミントン、水泳、釣り、囲碁、ラジコンと様々にやってきましたが、いずれも中途半端で終わった。今は、ダンスに本気になりつつある。ダンス歴は長いのだが、これまでは団体サークルで皆と楽しく踊れればいいと、パーティーでそれなりに踊っていた。



華麗なダンスを披露する筆者

社交ダンスの男性は女性の何倍も大変です。ステップの順番を組み立て音楽に外れない、他組とぶつからないようにリードしなければならぬ。今は、ダンスに本気になりつつある。ダンス歴は長いのだが、これまでは団体サークルで皆と楽しく踊れればいいと、パーティーでそれなりに踊っていた。

「鹿屋特攻慰霊祭」へ参

鹿屋航空基地近くの小塚公園に特攻隊員の慰霊塔が空高く聳え立っている。昭和11年4月1日に開設した鹿屋航空基地は、支那事変から大東亜戦争まで基地機能を維持してきた。

昭和20年3月11日の「梓特別攻撃隊」の出撃を皮切りに同年6月25日の「菊水第3白菊隊」出撃までの間、908人の特攻隊員が鹿屋基地から南の空に飛び立ち、還らぬ人となった。海軍の特攻隊員が2526人であるから、約1/3強

辺の清掃作業を毎年実施しています。出水支部長 吉田國蔵 記

技会に初出場。自分では良いと思っていたが、結果は惨憺たるものであった。先生から「競技ダンスは別物だよ。静かかつスピードがあり、音取りが違う。」と言われた。理屈では理解できるが、体がそのように動かない。何回も同じステップを繰り返す練習は辛いけど、少しずつ面白くなりだした。競技ダンスを続けて「上級を目指すぞ」と練習に精が出るようになった。

某先輩は夫婦で踊られており、奥様を優しくリードされている姿は眩しく、羨ましいものである。「自分もあのようにになりたい。」と思い、体力に合わせて永く踊り続けたことになった。鹿屋南支部小原憲一記

行われ、51遺族・131人の方が参列された。特筆として、旧海軍出身の方々が整列して「隊歌演習」と称して「同期の桜」を合唱される。すると、参加者の皆さんも口ずさんで「同期の桜」の大合唱となる。式典の最後に、予科練出身で海自OBでもある中藤光雄氏が特攻隊員の遺書を朗

読される。遺族の謝辞では、鹿屋市が慰霊祭を毎年挙行されることに對する感謝の言葉を述べられる。また来年も神風特別攻撃隊員の安寧を祈り、感謝を捧げる慰霊祭が厳粛に行われることであろう。平田鹿屋海支部長 記

自然で意欲的な生活を

歳月人を待たず」とはよく言いますが、50才を過ぎてからは特に時の流れの早さを感じます。今年も冬から春、そしてもう夏へと季節が変わったのに、まだ身体も衣替えも追いつかない毎日です。決してポツポツとしているわけではないのですが、二人きりの生活と

なりました。夕食後は、だれやめの手も止まった主人とウォーキングを済ませた私も遠慮なくゴロリ。だらしない事は十分承知しかしこのほっとする時間こそが疲れを癒し、明日への活力につながっていると信じます。主人が自衛隊定年退職後にどのような生き方をしているのか、妻としては少し心配でしたが、いやいやと全くと問題なし。さっさと就職し、すべきことをきちんやり、そこそこ頑張り楽しく生きていくこと」をモットーに、大好きなゴルフ、釣りですトレス解消。田畑で汗をかいて野菜、米を作り、自然からの頂きものを毎日美味しく食す生活です。まだまだこれから先の人生何があるかわからないが、確実に歳をとり、誰にも老化が訪れます。毎日幸せな日々を望みますが、せめて嫌なことが少ない一日を過ごしたい。できれば元気で意欲的に楽しみを見つけて行けたらと願うばかりです。さつま支部 森田裕二会員の奥様 森田孝子 記

戦没者慰霊祭へ参加

鹿屋地区協議会は、3月29日早朝から、鹿児島戦没者墓地清掃及び慰霊祭行事に参加した。今年も戦後70年という節目であり、KTSテレビ等から戦後70年高年齢化に伴う慰霊祭の行方への取材もあり、行事の準備作業から報道された。今年の参加者は25人

で、天幕展張組及び清掃組に区分して実施し、約1時間半で終了した。10時から国分駐屯地音楽部の勇壮な演奏で慰霊祭が開始され、気持ちの高鳴りを感じつつ雰囲気盛り上がったところで、護国神社の宮司により神事が厳かに執り行われた。主催者挨拶では、

この間隊友会は、参加者の案内・接遇及び子供会の国旗掲揚補助等の支援を実施した。その後、来賓挨拶等があり、最後に鹿屋島神社宮司の山下氏による薩摩琵琶演奏があり、戦没者の霊を慰め



鹿屋島戦没者慰霊祭の状況

晴れの受賞 おめでとう

◎叙勲受章 (春の叙勲)

- ☆瑞宝小綬章 (鹿屋海) 平田 辰雄 殿
- ☆瑞宝双光章 (危険業務) 国分 (陸) 北迫 輝雄 殿
- ◆準人 (陸) 新中 輝美 殿
- ◆鹿屋 (海) 末岡 和弘 殿
- ◆薩摩川内 (陸) 永吉 幸仁 殿
- ◆始良 (陸) 西木場 浩 殿
- ◆国分 (海) 福田 勝則 殿
- ◆薩摩川内 (陸) 宮脇 善明 殿

- ☆瑞宝単光章 (危険業務) 鹿屋島 (陸) 有園 孝 殿
- ◆前園 裕行 殿
- ◆志布志 (空) 小原 三男 殿
- ◆鹿屋 (海) 重村 久吉 殿
- ◆薩摩川内 (陸) 島津 幸夫 殿
- ◆伊佐 (陸) 永富 訓 殿
- ◆瀬戸内 (海) 柳 一範 殿

- ◆準人 (陸) 前田健二郎 殿

鹿屋島地協 後藤光一記